

ことしの 10大ニュース

■木崎小学校の新校舎完成 (四月)

児童の増加や校舎の老朽化で改築が望まれていた市立木崎小学校（江口慶吉校長、児童数四百八十八人）が新しく生まれ変わりました。総工費約五億五千万円で三階建てのモダンな校舎です。

■新しい博物館が完成(四月)

鉄筋コンクリート平屋建て、延床面積一千六百四平方メートルの博物館が、葛塚東小学校前に完成しました。総事業費は、一億八千七百四十五万円で、このうち八千万円は電源立地交付金、一千万円は石油立地交付金によるものです。

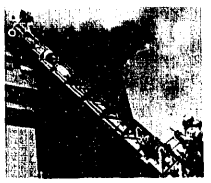
来年三月末一般公開に向け展示品の整備が現在急ピッチで進められています。



▲ 来年3月末一般公開をめざし急ピッチで整備が進む博物館

■市で初のビル火災発生 (四月)

四月二十二日、市で初のビル火災が発生し、はしご車も出動しました。火元は、三和ビル（自新町一）で、原因は電気コードの短絡（ショート）によるものでした。



▲ ハシゴ車も出動したビル火災

■葛塚本町土地区画整理事業計画の説明会が始まる (四月)

四月二十五日、中央公民館で、葛塚本町土地区画整理事業計画の説明会が初めて行われました。

百年の大計と言われるこの計画は、総事業費三十億七千四十五万円、昭和六十五年度完了を目指した大事業であり、様々な問題点もあります。今後関係各自治会を対象に説明会を予定しています。

■川崎ミツさん

市で初の百歳に／八月
八月十一日、市で初めて、百歳のお年寄りが誕生しました。明治十二年八月十一日生まれた川崎ミツさん（内島見です）（写真左）
川崎さんは、今年の四月に一時健康を害しましたが、その後元気に、二度の食事もきちんととるそうです。



▲ 百歳の川崎さん



▲ 記念行事の最後を飾った家族そろって歌合戦

■葛塚中卓球部(男子) 全国大会出場(八月)

県大会で圧倒的な強さで優勝、北信越大会でも三位となった葛塚中学校卓球部(男子)は、八月二十三日と二十四日東京の「夢の島体育館」で行われた全国大会に出場しました。

大会では、残念ながら予選リーグで敗退しましたが、現在も来年に向けて練習に励んでいます。

■豊栄の伝統が、国の伝統的工芸品に指定される (十月)

豊栄伝壇が、市内では初めて、国の伝統的工芸品に指定されました。日本古来の伝統的技術、技法と、伝統的に使用された原材料を用いて製造された製品が、国の伝統的工芸品として指定されます。

■記念行事盛大に行われる (十月・十一月)

市は今年、市制施行十周年、新町建設二十五周年という記念すべき年に当たります。これを記念して、記念式典や文化講演会、文化祭、BSNテレビでの紹介、家族そろって歌合戦の公開録音など多彩な行事や事業が行われました。

■早通地区老人憩の家「いする荘」完成 (十一月)

懸案だった早通地区老人憩の家が完成し十一月十四日に完工式が行われました。総面積二百四十六平方メートル、総事業費四千五百五十万円のこの老人憩の家は、「いする荘」と決まりました。

■豊栄環境センターが完成(十二月)

聖籠町と共同で建設が進められていた環境センターが、浦ノ入地内に完成しました。今月の二十六日に、火入れ式を行い、来年一月から調整を兼ねた試運転開始。新年度から稼働することになっています。十六時間八十トンのゴミを処理するこの施設は、総事業費十億三千九百七十七万三千円、このうち豊栄の負担割合は、七七・二割です。特徴は、将来の人口増加にも対応できる処理能力を備えていることです。

- このほかのおまきごと
- 早通南小学校体育館建築工事契約議会で否決される(六月)
- 二葉保育園の新園舎完成(六月)
- 全国的な凶作にもかかわらず、この地方は豊作(九月)
- 新藤綾子選手全日本体操選手権女子総合で三位になる(十一月)
- 市営運動場の工事に着手(十一月)

現在建設中の環境センターを訪ね、近代的処理方式による設備に感心。

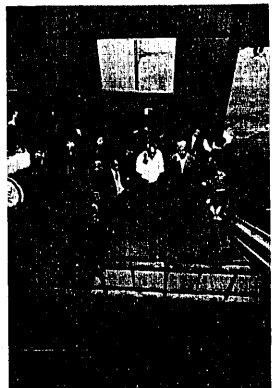


私たちのごみは 私たちの手で



「ごみ、ごみ……」の山

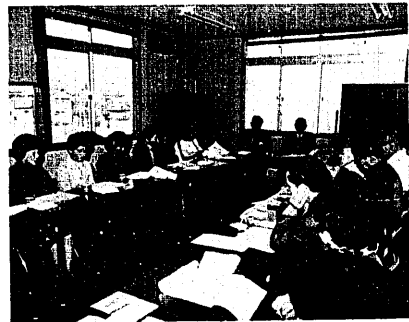
ごみ焼却場を見学し、ごみの処理方法について、職員の説明を聞きます。



家庭から出されるごみは、増える一方です。この中には燃えるごみと燃えないごみが混じっています。

ごみの再利用を考えよう

豊栄市住みよい郷土建設協会の生活環境浄化部会(部会長 長横山和乎)は、このほど「ごみ収集の懇談会」を各地区で開催しました。
年々、ごみについての問題が増え、特にごみ収集場の現状が深刻化しているのが現状です。そこで、ごみ処理の理解を得ることを目的にこの懇談会が開催されたものです。
懇談会では、ごみ処理の現状として、ごみ収集場の問題点が話し合われ、市役所環境整備課からは、
・収集日でないのに、ごみを出す人がいる。
・不燃物と可燃物が混じっている。
・ごみ収集場が、常時溢れかたっている。
・残材ポッド類まで出す人がいる
といったような問題が出され、
そのほか、ごみの焼却や埋立て、それにごみの再利用及び省資源、さらに、し尿浄化槽などについても、活発な意見交換が行われました。
その中で、ごみの再利用と省資源については、婦人団体連絡協議会が中心になって、資源保護や省エネルギーの立場から、古紙等の再利用をとりあげ、新年度から実施したい旨の計画案が出されました。その手はじめとして、現在アンケートによる実態調査が実施されています。
なお、懇談会に入る前、ごみ処理についての理解を得るため、黒山のごみ焼却場、新築なった浦ノ入の環境センターをそれぞれ見学しました。



「ごみ、について真剣に討論するみなさん。ごみを捨てるばかりでなく、資源愛護の立場から、古紙の再利用の意見も……(早通出張所集会場)